

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

やっぱり楽しいマルチメディアDAISY図書

京都府立南山城支援学校
廣岡和美、加藤安貴子

はじめに

本校でマルチメディアDAISY図書の使用が始まって6年目を迎えました。活用と認知度が全校に広がってきました。

活用の際にiPadをアップルTVとWi-Fiを使用して、無線で大型テレビやプロジェクターに映すことで、より子どもたちが活用しやすくなっています。

言語指導場面で

本を読んで内容を理解し、楽しく取り組むまでには、文字がすらすら読めることはもちろんのこと、読みながらイメージを膨らませることが要求されます。

文字を一文字ずつ読むだけでもエネルギーや集中力が必要な子どもたちにとって、マルチメディアDAISY図書で挿絵とハイライトを付けた文字の提示は、とても楽しく学習できる教材になっています。

また、指導者の絵本の読み聞かせよりマルチメディアDAISY図書を使うほうが内容を理解しやすい生徒もいます。

実践例

ひらがなやカタカナなどの文字を正しく読むことができる生徒だったので、音読をしたり、指導者が読み聞かせをしたりしていました。

その後に「だれが?」「なにを?」「どこで?」などのお話の内容に関する簡単な質問をしていました。2択～3択の答えの選択肢を用意するなどの工夫もしていました。

ある時、マルチメディアDAISY図書を使って絵本を聞いた後に、お話の内容を聞いてみると、選択肢がなくても、「だれが?」「なにを?」「どこで?」などの質問に答えることができたのです。

マルチメディアDAISY図書の効果として、

- ・読み上げた箇所がわかるので、視覚的に文字を追いやすく記憶に残りやすかったのではないかと
- ・読み上げ音声が登場人物の台詞によって変わるので、登場人物がわかりやすかったのではないかと

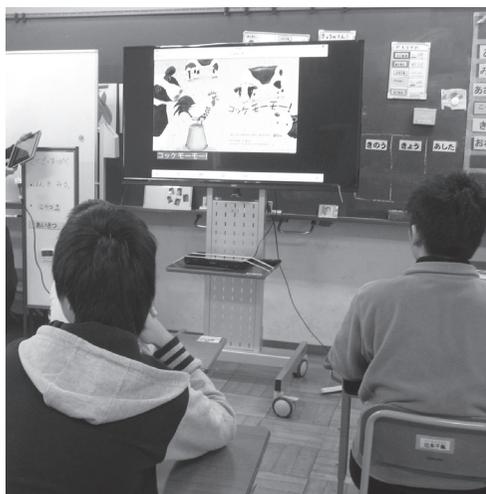
以上のような点を実感しました。



読み上げ機能が理解を深める

国語の学習場面で

ふだんから大型テレビを活用した授業を実施するのですが、大型テレビやiPadを教室へ持って行くと、子どもたちの目が輝き期待感が伝わってきます。



大型テレビで読み聞かせ

今回の実践では、身近な言葉や短い文章を声に出して読むことや内容の理解をねらいに、よく知っている絵本や

お話から『コッケモーモー！』と『わにさん どきっ はいしゃさん どきっ』の読み聞かせを行いました。

聴覚障害の生徒や文字が読めない生徒も集中して見ていました。

『コッケモーモー！』の話は、場面毎に出てくる動物の鳴き声がわかりやすく楽しく見ることができました。

見終わってから、絵本から取ったカラーコピーを見せて、「鳴き方を忘れたニワトリが場面ごとに何と鳴いたでしょう？」と尋ねると、ふだん質問の意図がわかりにくい生徒が自信をもって発表することができました。

まとめ

マルチメディアDAISY図書の魅力は、それぞれの子どもの学習課題や障害の種別に応じて使えること、文字が読めない人も読書を楽しめることだと思います。将来的に余暇の充実につながるツールでもあると思います。マルチメディアDAISY図書が、より広く社会に広がってくれることを期待しています。